

生涯学習だより

☎ 教育課 生涯学習係
☎ (83) 7021

生涯学習センターまつり開催!

4月30日(土)に「生涯学習センターまつり」を開催しました。会場の青空広場では、新鮮野菜や焼きたてパンなどの出店が並び、マスク越しの会話も弾んでいました。コロナ対策をしながらですが、ゴールデンウィークの青空のもと、売り手も買い手も思わず笑顔になるそんなひとときでした。



たくさんの皆さまに、ご来場いただきました



スーパークィズクラブの小学生が射的などのゲームコーナー、寺子屋まつだの中学生がたこ焼きなどの食べ物店の担当者として大活躍しました。さらに、お手伝いとして、寺子屋まつだ卒業生の高校生も加わっていました。参加理由を聞いてみると「楽しいから!」と即答でした。こうした体験をすることで、多世代との交流や社会性を学ぶことができます。参加している子どもたちの成長とつながりを感じることもできたセンターまつりでした。

成長とつながり



「おいしいですよ」「いかがですか」たこ焼きなどを販売する中学生・高校生



「カブト」で読書活動推進をアピール!~社会教育委員会議~



リードクライミング体験会達成感を味わっていました

松田 文化財探訪

続・町指定文化財とその周辺 その28

文化財保護委員 鈴木 一行

延命寺(二) 秀吉襲来

もう二十年以上前のことですが、『秀吉襲来』近世関東の幕開け』というテーマで横浜市立歴史博物館が特別展を開催しました。今でこそ「小田原合戦」という表現が一般化していますが、当時は「小田原征伐」などと教科書にも書かれていました。ですから侵略された側の視点でのネーミングは刺激的でした。では、天正18年(1590)に豊臣秀吉軍が襲来した時、松田の人々はどうしていたのでしょうか。また、延命寺はどうなってしまったのでしょうか。

実は、「松田之郷」や「こう山村」などに宛てた秀吉の「還住の制札」と呼ばれる文書が残されています。そこには「乱暴はしないから、自分達の村に戻ってこい」とあります。つまり、住民達は戦乱を避けるために裏山などに小屋を作った「小屋入り」をしていたのでした。一方、延命寺は

兵火に掛かって焼失したことが慶安2年(1649)の延命寺由緒書(延命寺が領主の稲葉氏に提出した文書)に見えます。そして、20貫文ほどの寺領は、新たに領主となった大久保氏によって没収されてしまったのでした。しかしその後、大久保氏によって寺の修復は行われたようですが…。

先の由緒書には、秀吉軍の侵略により「前代の什物・仏具・法具は一つも残らず火失」とありましたが、しかし焼失を免れた物もありました。それが今に伝えられている「延命寺文書」です。それは松田惣領の領主遠山氏が当寺に与えた六通の戦国期文書で、中には手紙の一部が焼損した物もあります。おそらく当時の住職が兵火の中を懸命に守り抜いて残してくださったものなのでしょう。



延命寺文書